

「新しい東北」交流拡大モデル事業の取組

- 復興庁は、外国人旅行者向けの旅行商品や学生の交流、企業向けの研修プログラム、受け入れ体制の整備などを行うことで、国内外の外国人が東北6県を訪れる機会を創出する事業モデルの普及・展開を目的とした「新しい東北」交流拡大モデル事業を推進
- 令和2年度は、商品造成・販売のノウハウの地域へのさらなる定着・展開と、東北内の事業者が自走する体制作りを目的として事業を選定

岩手県沿岸地域モデル事業の取組紹介

- 「東北UTSUKUSHIの旅」をフックとした沿岸地域への交流拡大モデル(令和元年度)
→JR大船渡線を基軸とした内陸と大船渡線沿線の地域を結ぶ商品造成・販売
- 内発的発展による岩手県沿岸地域のインバウンド交流人口拡大事業(令和元年度)
→地域住民自らの手による観光事業の促進
- 岩手県の内陸沿岸連携によるSBNR層誘客と受入基盤整備事業(令和2年度 岩手県)
→東北ならではの地域コミュニティの歴史や文化に根差した人の暮らしを商品化し、SBNR層に向け持続的に販売できる自立自走型の地域間連携体制の構築
- 「Kataribe On The 3.11 DENSYO ROAD」を発信拠点としたインバウンド誘客促進事業(令和2年度 岩手宮城三陸沿岸部)
→津波被害を受けた人々が、各地域で行う語り部のインバウンド向け商品造成・販売

○被災地域企業新事業ハンズオン支援事業

→被災地域における新産業の創出につながる新たな事業(新商品開発、販路拡大、既存商品の付加価値化・生産効率化等)を対象に、その事業化に向け、民間企業出身の復興庁職員が民間の知見を活用しつつ、被災地企業に寄り添いながら経営課題を解決していく支援を実施

○専門家派遣集中支援事業

→被災地で新たな事業を立ち上げる事業者に対して、専門家が指導・助言のほか、試作品の制作等実務面まで集中支援を実施

ハンズオン支援事業(岩手県)の取組紹介

- 顧客情報の効果的活用、販促ツールの作成による更なる販路拡大に向けオンライン商談会の実施、各社の発進力の磨き上げ(令和2年度 三陸けせん希望ストリート連絡協議会(大船渡市、陸前高田市、住田町)】
- 岩手県三陸・内陸-交流プロジェクト(令和3年度 岩手県)
花巻地区と沿岸・県北をつなぐ観光プログラム開発、沿岸・県北の地域資源を活用した物販商品開発
花巻温泉をハブにした県北・沿岸の食材活用、商品販売の仕組み作りや、観光・物産PRの共同実施
- 三陸サーモン養殖バレー整備事業(令和3年度 大船渡市、釜石市、気仙沼市)
持続的な水産資源を確保するため養殖サーモンのバリューチェーン構築を支援
専門家、関係機関を交えた調査・研究等により「種苗生産」「養殖」「河口・流通・販売」の強化を進め養殖サーモンのバリューチェーンの構築

地域復興マッチング「結の場」/ 復興に関する情報発信

○地元企業が抱える多様な経営課題の解決を図るため、首都圏等の支援企業が自らの経営資源(技術・情報・販路等)を幅広く提供しながら、地元企業と支援企業が対話を行い、新たな連携事業創出の一助とすることを目的としたワークショップを開催



ワークショップの様子 (オンライン形式)

※令和3年度は11月18日(木)に釜石市で開催予定

【令和2年度の取組紹介(岩手県)】

令和2年12月9日、宮古市にて開催し、地元企業8社と支援企業27社が参加し、13件マッチングした。

(マッチングの例)

地元企業:顧客ニーズに対応した販路開拓、PR手法
支援企業:ECサイトへの掲載、販促ツール制作支援

➤ 産業復興の事例集の作成



平成28年2月
「私たちが創る」
平成29年2月
「東北発 私たちの挑戦」
平成30年2月
「続く挑戦 つなぐ未来へ」
平成31年2月
「想いを受け継ぐ次代の萌芽」
令和2年2月
「持続可能な未来のために」
令和3年2月
「復興のその先へ」

➤ フェイスブックの復興庁公式アカウントを開設



平成28年11月から現場での復興の進捗や各種支援施策情報をはじめとした様々な取組みをタイムリーに情報発信。

復興庁フェイスブック公式アカウント

URL:<https://www.facebook.com/Fukkocho.JAPAN/>